

Course number	U-LAS70 10001 SJ50				
Course title (and course title in English)	ILASセミナー：現地で学ぶ京都の建築 ILAS Seminar: Visiting the Site to Study Architecture in Kyoto	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Engineering Professor, KANETA TAKASHI Graduate School of Engineering Associate Professor, IWAMOTO KAORU Graduate School of Engineering Associate Professor, NISHINOSAYAKA		
Group	Seminars in Liberal Arts and Sciences	Number of credits	2	Hours	30
Class style	seminar (Face-to-face course)	Year/semesters	2025・Intensive, First semester	Quota (Freshman)	12 (12)
Target year	1st year students	Eligible students	For all majors	Days and periods	Intensive TBD
Classroom				Language of instruction	Japanese
Keyword	建築計画および都市計画 / 建築史および意匠 / 京都 / 歴史 / 文化				
[Overview and purpose of the course]					
京都の建築のあるべき姿と、それを構築するための設計理論を、実現された建築を通して学ぶ。					
[Course objectives]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築・都市に関する基本的事項を理解する。 ・ 課題（レポート）に対して自主的、継続的に取り組む能力を養う。 					
[Course schedule and contents]					
<p>（１）近代建築の利活用とまちづくり（西野 佐弥香） 近代建築を現代のニーズに合わせて利活用しつつ、望ましいまちのあり方を実現するための方策を現地のフィールドワークを通して考えたい。視察先については、その時期に視察可能な対象のなかから選定する。</p> <p>（２）建築の生産と再生（金多 隆） 京都の市街地において新たに建築を生産すること、既存の建築を再生することの意義と難しさについて、実例をふまえて考察する。</p> <p>（３）京都の町と町家（岩本 馨） 京都では、通りを挟んだ両側を単位とする町という地縁的共同体が今も生きている。祇園祭の時期の京都中心部を歩きながら、町と町家の関係について考える。</p> <p>1テーマにつき、4～5回分の授業をまとめて前期のどこか1日（原則として土曜日もしくは休日）を使って講義を行う。 集中講義（計3日）とは別に、4月に初回ゼミを実施する。そこで具体的な日程を受講生と相談して決める。</p>					
Continue to ILASセミナー：現地で学ぶ京都の建築(2)					

ILASセミナー : 現地で学ぶ京都の建築(2)

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

積極的受講態度、平常点、レポートによる。詳細は授業中に説明する。

[Textbooks]

Not used

[References, etc.]

(References, etc.)
特になし

[Study outside of class (preparation and review)]

実地見学の前に、書籍・雑誌・インターネット等を通じて、見学対象の建築や町並みについて調べておくこと。

[Other information (office hours, etc.)]

交通費・拝観料等は受講生が負担する。
学生教育研究災害傷害保険へ加入していること。

[Essential courses]